

湖北広域行政事務センター

新一般廃棄物処理施設整備運営事業

事業化シミュレーション 前提条件から総合評価 (4)

◇事業化シミュレーションの結果

1. 定量評価の結果

●財政支出の試算結果（実額）

実額での従来方式を比較基準とした場合のVFMの評価結果は、DBO方式（7.63%）、次いでPFI方式（起債適用BTO方式）（6.95%）の順に財政支出の縮減効果があると評価されました。

●財政支出の試算結果（現在価値）

現在価値換算での従来方式を比較基準とした場合のVFMの評価結果は、2%で設定した割引率で現在価値に換算した財政支出比較結果では、PFI方式（起債適用BTO方式）（8.31%）、DBO方式（7.59%）となりPFI方式（起債適用BTO方式）の財政負担の縮減効果が最も高いことが確認されました。

➡ **PFI方式（起債適用BTO方式）が、財政支出の削減効果が最も高い事業方式であると評価しました。**

2. 定性評価の結果

- DBO方式及びPFI方式（起債適用BTO方式）で実施することで、適切なリスク分担により、効率的なリスク管理が実現できます。
- 民間事業者のノウハウを活かした安定した事業推進が可能となります。
- PFI方式（起債適用BTO方式）では、金融機関の監視による経営の透明化が図られます。
- 一定の競争性が確保できます。

➡ **PFI方式（起債適用BTO方式）が最も妥当性があると評価しました。**

◇VFMの算定結果



◇事業手法の総合評価結果

定量評価の結果及び定性評価の結果を踏まえて事業方式は、

「PFI方式による起債適用BTO方式」を採用することに決定しました。

《起債適用BTO方式が優れている点》

- ・PFI方式は、民間企業が自ら金融機関より資金調達を行うとともに金融機関もセンターと直接協定を締結し、本事業に直接介入することによる民間事業者の設立するSPCの経営監視や事業継続に係る支援が期待できること。
- ・総事業費の現在価値換算において、PFI方式（起債適用BTO方式）は、DBO方式（7.59%）と比較し高いVFM（8.31%）が確認されたこと。
- ・PFI方式（起債適用BTO方式）は、民間事業者がプロジェクトファイナンスにより調達する資金の額が小さくなり資金調達リスクが低いことからDBO方式と同水準の競争性が想定され、センターと民間事業者のリスク分担の最適化を検討することで、活発な競争環境の創出が期待できること。
- ・事業者選定時に評価項目や発注仕様の検討において、民間事業者からのプロポーザル（提案）要素の比重を高めることによる民間事業者のノウハウを活かした新一般廃棄物処理施設の設計・建設、維持管理・運営、環境への配慮、ひいては高い市民サービスの提供などサービス向上が期待できること。

※詳細については、<http://www.kohoku-kouiki.jp/topics/新一般廃棄物処理施設整備運営事業の事業方式決定について.html> をご覧ください。